

デジタル機器の互換性検証

「ユーマーク」社設立

デジタル機器の接続互換性検証事業を柱とする新会社ユーマーク(那覇市)がこのほど設立された。検証サービスや人材育成事業で実績のあるエス・キュー・シー(東京都)が50%を出資、USB製品などのロゴ認定事業などを手掛けるエクスカル(横浜市)と業務提携した。国内の電子機器メーカーから、デジタル機器を他社製品とつないだ際の

作動状況などを検証する業務を請け負い、3年後に約1億円の売上高を目指す。

県内の情報通信関連企業の育成支援に取り組んできた大城保氏と大城周児氏が残り50%を出資し、それぞれ社長と副社長に就任した。同社内にエス・キュー・シーとエクスカルは、エクスカルは国内の主要メーカーが相互接続性の高いネット

トワークづくりを目指す「D LNA」の検証事業を手掛けており、ユーマーク社でもこの事業を中心にサービス展開する。

検証ビジネス

国際化後押し

— IOT 評議委員

スマートフォン端末や家電など各種通信機器の相互接続性を検証する国際基盤構築に取り組み一般社団法人 IOT(うるま市、半田祐一理事長)の初めての外部評議委員会が29日、那覇市の沖縄

産業支援センターで開かれ、IOTが目指す今後の事業展開の在り方について議論した。

委員会は委員長を務める東京大学名誉教授の羽鳥光俊氏のほか、北陸先端科学技術大学院大学教授の丹康雄氏、情報処理推進機構(IPA)の田丸喜三郎氏、横須賀リサーチパーク(YRP)理事長の瀧沼男氏や県内教育機関の代表者らで構成。検証分野に精通した国内産学官のトップで事業を支えることで、沖縄における検証ビジネスの国際標準化を後押しする。

明言深聞

本音を探る

全日本空輸(ANA)が2013年度に貨物専用機を1機増やし、那覇空港を基点に国内外に展開している沖縄物流ハブの路線網を拡大させていくことを決めた。3周年を迎えた沖縄物流ハブの課題や展望とローコストキャリア(LCC)の参入を受けた旅客部門の経営・成長戦略について、ANAの伊東信一郎社長に聞いた。(聞き手=政経部・栗国雄一郎)

社長

伊東 信一郎氏



ちろう 1950
崎県出身。九
。74年に全日
年に常務取締
締役、09年に
就任した。

アジアの元気を沖縄に

た時期のヤマト運輸さんの進出 もつながる。沖縄の地理的な優位性をいかして、発展が確実なアジアの成長を沖縄に取り込み、ひいては日本を元気にする

「沖縄ハブを進展させていくために、沖縄発の貨物をもっと増やしたい。沖縄でモノづくりをしている企業が進出をされ、配送センターや部品庫などが集積されれば、雇用の拡大に

いく中で、さらに参入は進む。私たちは従来のANAとLCCの両方にかかわる「マルチブランド戦略をとっていく。LCCが既存の需要を大きく食いつていることは現時点ではない」

「ANAとしては、那覇から先島への乗り継ぎ便を定期通り飛ばすとか、安心感を提供していくとか、これまでと変わらない取り組みを進めていく。マ

「私たちがそういう心配はしていない」

「麦の雫」を発売
オリオンビール

オリオンビール(嘉手苅義男社長)は30日、新ジャンル商品の新商品「オリオン麦の雫」を発売する。自宅で食卓を囲んでアルコール飲料を楽しむ「家飲み派」の需要が拡大する中、食事を引き立てる「麦のうまさ」とアロマホップの香りのバラ

通して県外にも売り出す新ジャンルとしては、目。原材料の麦芽比率をジャンル内で最も高い配設定。発酵方法も香り付ロマホップをブレンド使用など工夫を凝らしたとい商品発表会には、CMされた県出身タレントとあきさんとイラストレーokke104の池城由紀乃らリジナル楽曲を提供した

高級魚
奄美で産
鹿兒島水

鹿兒島水産
ターは、高級魚
るスジアラの牛
め、奄美群島
薩川湾に稚魚
した。背びれの
い標識を付けて
れる捕獲情報を
や移動経路を地
スジアラは産
どで取れ、鍋物
にして美味。ま
まで体長10センチ
魚を放流してき
なる前に食べな
め、魚獲量